



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2026年  
No.1  
事例2

調剤

## 名称類似薬の取り違え



### 事例

#### 【事例の詳細】

70歳代の患者にロフラゼパ酸エチル錠1mg「サワイ」が処方された。薬剤師Aは誤ってロラゼパム錠1mg「サワイ」を調製した。鑑査を担当した薬剤師Bが間違いに気付き、正しい薬剤を調製し直した。

#### 【背景・要因】

ロフラゼパ酸エチル錠1mg「サワイ」とロラゼパム錠1mg「サワイ」は同じ引き出しの中に薬剤を外箱に入れた状態で保管していた。当薬局ではロラゼパム錠1mg「サワイ」を取り扱う頻度が高く、薬剤師Aはロラゼパム錠1mg「サワイ」が処方されたと思い込んで調製した。

#### 【薬局から報告された改善策】

引き出しに仕切りを設置し、ロフラゼパ酸エチル錠1mg「サワイ」とロラゼパム錠1mg「サワイ」の外箱に「名称類似の薬剤あり」と書いたラベルを付けた。調製時は処方箋に記載された薬剤名を一文字ずつ確認して薬剤を取り揃え、次の調剤工程に進む前に取り揃えた薬剤の名称を再度確認する。



### その他の情報

販売名	ロフラゼパ酸エチル錠1mg「サワイ」	ロラゼパム錠1mg「サワイ」
効能又は効果	神経症における不安・緊張・抑うつ・睡眠障害 心身症（胃・十二指腸潰瘍、慢性胃炎、過敏性腸症候群、自律神経失調症）における不安・緊張・抑うつ・睡眠障害	神経症における不安・緊張・抑うつ 心身症（自律神経失調症、心臓神経症）における身体症候並びに不安・緊張・抑うつ
用法及び用量	通常、成人には、ロフラゼパ酸エチルとして2mgを1日1～2回に分割経口投与する。なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。	通常、成人1日ロラゼパムとして1～3mgを2～3回に分けて経口投与する。なお、年齢・症状により適宜増減する。
製品画像		

※sawai medical site医療関係者向け総合情報サイトより引用（2026年1月8日参照）



### 事例のポイント

- 向精神薬は、鍵付きのシャッターが付いた棚や引き出しなどで管理する必要があり、限られたスペースで複数の薬剤を保管するケースが多い。そのため、名称または外観が類似した薬剤でも近接して配置せざるを得ない場合がある。このような環境下で薬剤を正しく取り揃えるには、取り違えを防止するための対策が重要になる。
- 名称や外観が類似した薬剤を同じ引き出し内で保管する場合、本事例の改善策のように仕切りを設けて薬剤を定位置に配置する、外箱に注意喚起の札を取り付けるなどの対策は有用である。
- 名称が類似する薬剤は取り違えが発生しやすいことから、レセプトコンピュータに入力された処方データと取り揃えた薬剤を突合する調剤監査支援システムを導入するなど、薬剤の鑑査の精度を高めるための対策を講じることが望ましい。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。